

菌士郎[®] Bact-Collect ATP発光キット LL100-BCHS



<p>概要</p>	<p>遠心操作により菌密度を高め、高感度に生菌数（菌由来のATP）を測定する試薬キットです。 培養時間が不要であり、最短10分で、5cfu/mlから検出できます。（検体組成および菌種による）</p>
<p>希望小売価格 （税別）</p>	<p>47,880円</p>
<p>製品構成</p>	<p>ATP発光試薬BCHS（凍結乾燥品） 発光試薬溶解液BCHS（12 ml） ATP標準試薬（$1 \times 10^{-9}M$、5 ml） ATP抽出試薬（12 ml） 試薬C（50 ml）</p>
<p>保存条件</p>	<p>-20℃、遮光 ※調製後の発光試薬を3ヶ月以上保存する場合は、-80℃</p>

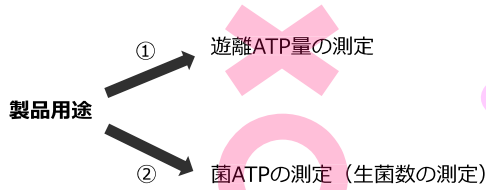
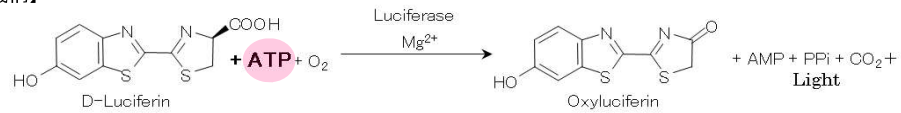
菌士郎[®] Bact-Collect ATP発光キット

メーカーコード
LL100-BCHS

東洋ビーネット株式会社 バイオプロダクツ部

【ホタル・ルシフェラーゼ発光反応機構】

発光量 (RLU) を
ルミノメーターで測定



本製品は、菌ATP測定
専用の試薬キットです

簡易性・低コストを重視したい場合は、下記製品を参照

* 菌士郎[®] ATP発光キット Ver.2
(製品コード: LL100-1-2)

* 菌士郎[®] 高感度ATP発光キット
(製品コード: LL100-1-2HS)

※ATP抽出試薬もセットになっています

※検体によって、別売の 菌士郎[®] ATP除去試薬 (メーカーコード: LL100-3)、

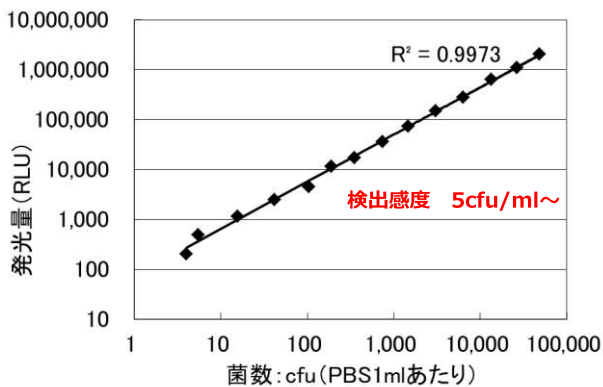
または、菌士郎[®] Bact-Collet専用ATP除去試薬 (メーカーコード: LL100-3BC) が必要になります。

これまで発光測定には不向きとされていた検体や、検出感度が不十分だった検体においても、高感度に菌数を推定することが可能です。

例えば…

- ① 塩濃度が高く、発光阻害を生じていた検体
- ② 油脂を含む検体
- ③ 色や濁りのある検体 (ex コーヒー)
- ④ 遊離ATPが多量に含まれている検体 (ex 茶、果汁飲料、果物・野菜のスムージー)
- ⑤ 半固体状 (乳化液状) の検体 (ex マヨネーズ)
- ⑥ 化粧品 (ex 化粧水)

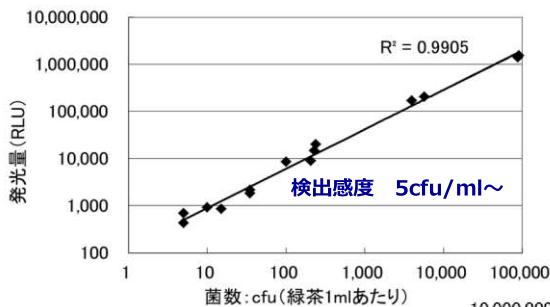
遠心操作により菌密度を高めることで、高感度に検体中の菌数 (菌由来のATP量) を測定できます。



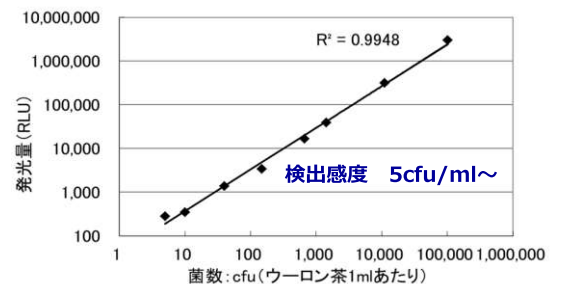
- 培養時間は不要
- 最短10分で測定可能
(※測定プロトコルは、検体組成によって異なります)
(※最長プロトコルでは約50分を要します。プロトコルの詳細は取扱説明書を参照して下さい)
- 検出感度 5cfu/ml~
(※検出感度は、検体組成および菌種によって異なります)

←Fig.1 リン酸緩衝生理食塩水 (PBS) 中の菌数と発光量の関係

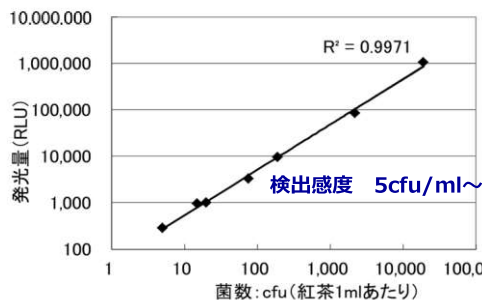
<その他 検体の測定例>



↑ Fig.2 緑茶中の菌数と発光量の関係



↑ Fig.4 ウーロン茶中の菌数と発光量の関係



←Fig.3 紅茶中の菌数と発光量の関係

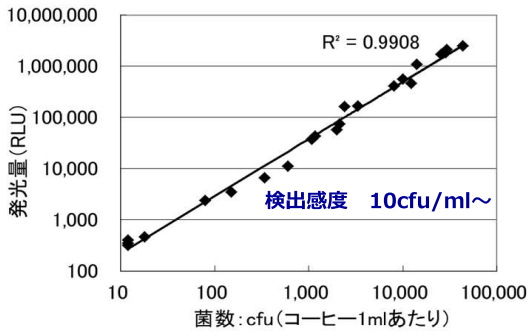


Fig.5 コーヒー中の菌数と発光量の関係

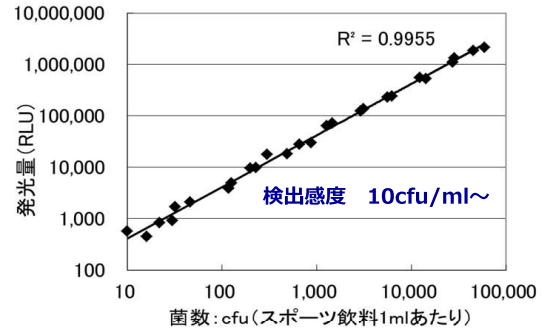


Fig.6 スポーツ飲料中の菌数と発光量の関係

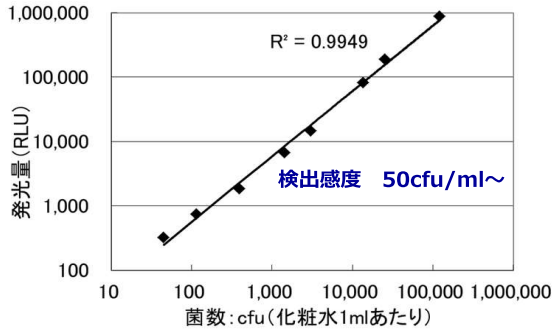


Fig.7 化粧水中の菌数と発光量の関係

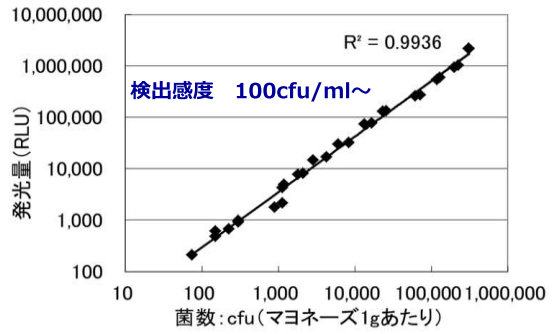


Fig.8 マヨネーズ中の菌数と発光量の関係

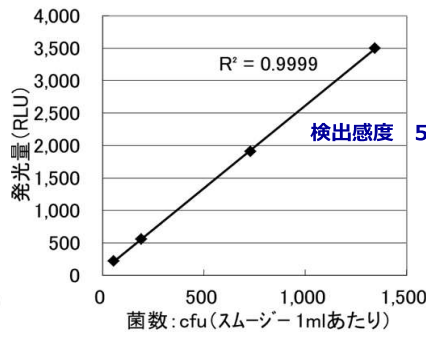
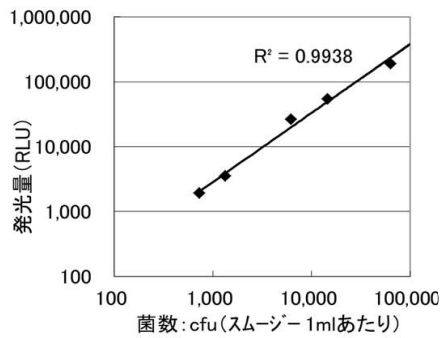


Fig.9 野菜&果実のスムージー中の菌数と発光量の関係

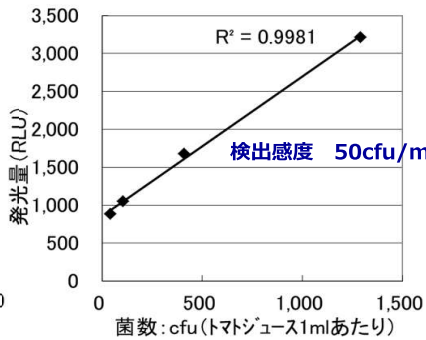
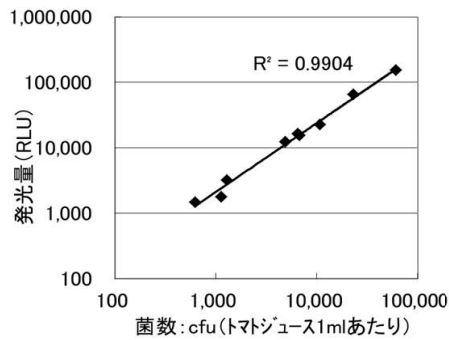


Fig.10 トマトジュース中の菌数と発光量の関係

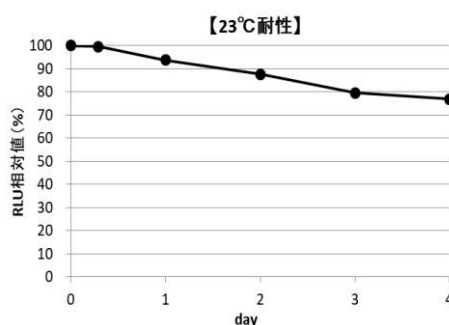


Fig.4 発光試薬の室温耐性 (※23°C)

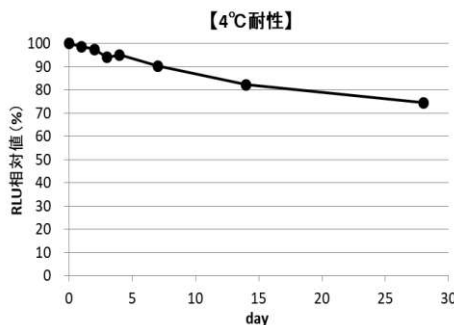


Fig.5 発光試薬の冷蔵耐性 (※4°C)

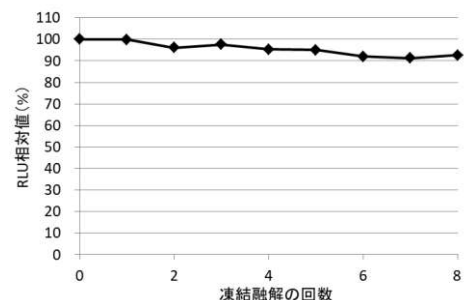


Fig.6 発光試薬に対する凍結融解の影響